



# 東京ホームタウンプロジェクト アセスメント2019

## 取り組みの概要

# アセスメント2019 の取り組み

## 目的

### 東京ホームタウンプロジェクト5年目を迎えるに当たっての振り返り

- ・ 支援後の成果物の活用状況の確認
- ・ 団体の運営状況の変化、運営への影響
- ・ 地域団体のニーズの再確認とプログラムへの改善

過去に支援を行った  
プロボノメンバー、  
もしくは学生により実施  
(津田塾大学総合政策学科、森  
川ゼミ・伊藤由ゼミ協力)

## 手法

### ① オンラインアンケート

同一項目での一斉調査による、成果物に関する支援後の変化及び活動状況の定量的調査

対象：過去支援先**90**団体  
(2015年度～2018年度支援先)

### ② 各団体への訪問インタビュー

訪問でのヒアリングを通じての個別支援先の細かな状況の把握、ニーズの洗い出し

対象：過去支援先**49**団体  
(2015年度～2018年度支援先)  
支援終了後1年以上経過した団体



# 東京ホームタウンプロジェクト アセスメント2019

オンラインアンケートの結果

# アンケート調査概要

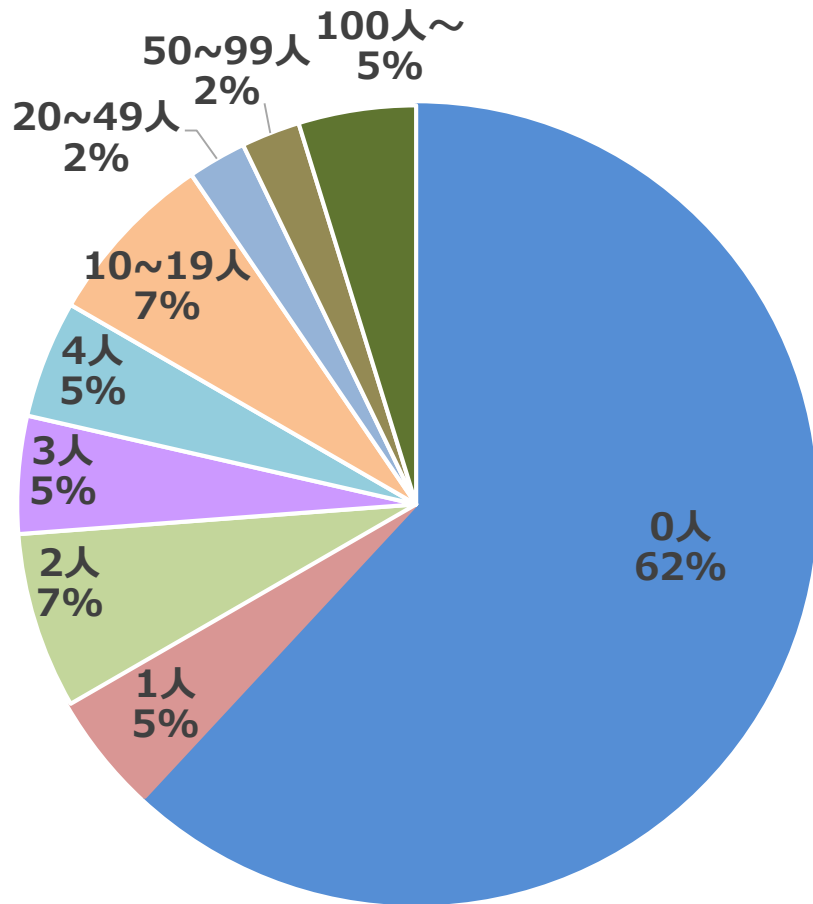
実施方法	オンラインでのアンケート調査
実施期間	2019年6月～11月
項目数	30項目（自由記述含む）
対象団体数	90団体 (2015年度～2018年度の支援先)
回答団体数	42 団体（回答率46.7%）
支援内容	
• 情報発信	23件
• ファンドレイジング	3件
• 業務改善支援	3件
• 事業戦略支援	13件

# 支援内容の詳細

<b>【情報発信】</b>	<u>計23件</u>	<b>【ファンドレイジング】</b>	<u>計3件</u>
ウェブサイト	1件	営業資料	2件
ウェブサイト改善整理	2件	クラウドファンディング企画	1件
団体紹介パンフレット	7件		
募集チラシ・ポスター	6件		
Facebook・SNS活用	4件		
商品のキャッチフレーズ	1件		
映像	1件		
その他	2件		
<b>【業務改善プログラム】</b>	<u>計3件</u>	<b>【事業戦略支援プログラム】</b>	<u>計13件</u>
プログラム運営マニュアル	3件	課題整理ワークショップ	4件
		マーケティング基礎調査	6件
		スペース活用ワークショップ	1件
		事業計画立案	1件
		事業評価	1件

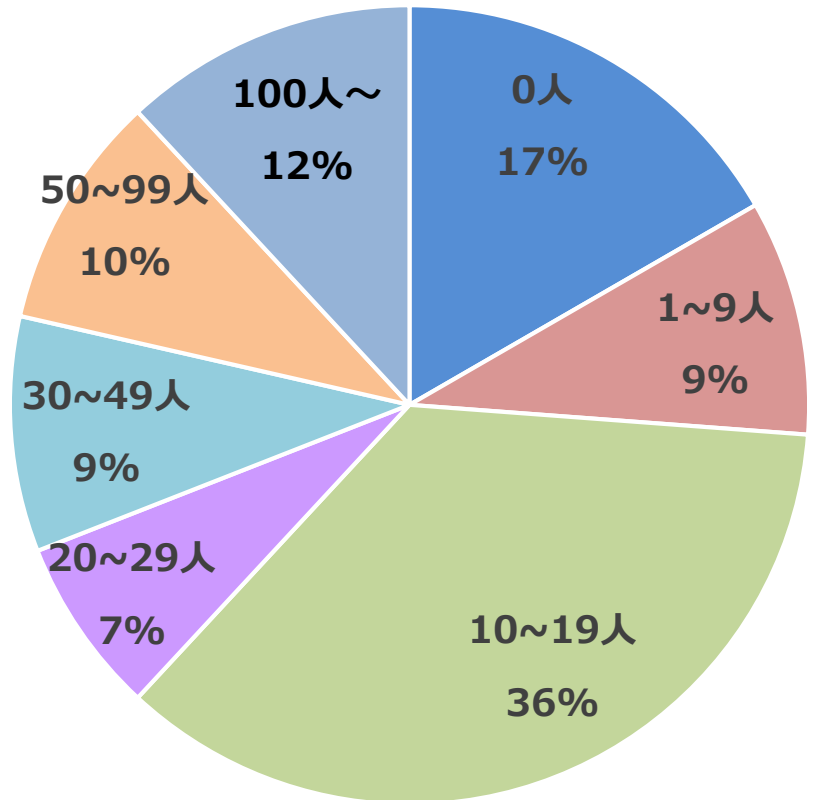
# 団体の構成

## 有給・常勤(週4日以上)のスタッフ人数



平均：8.7名

## ボランティア人数

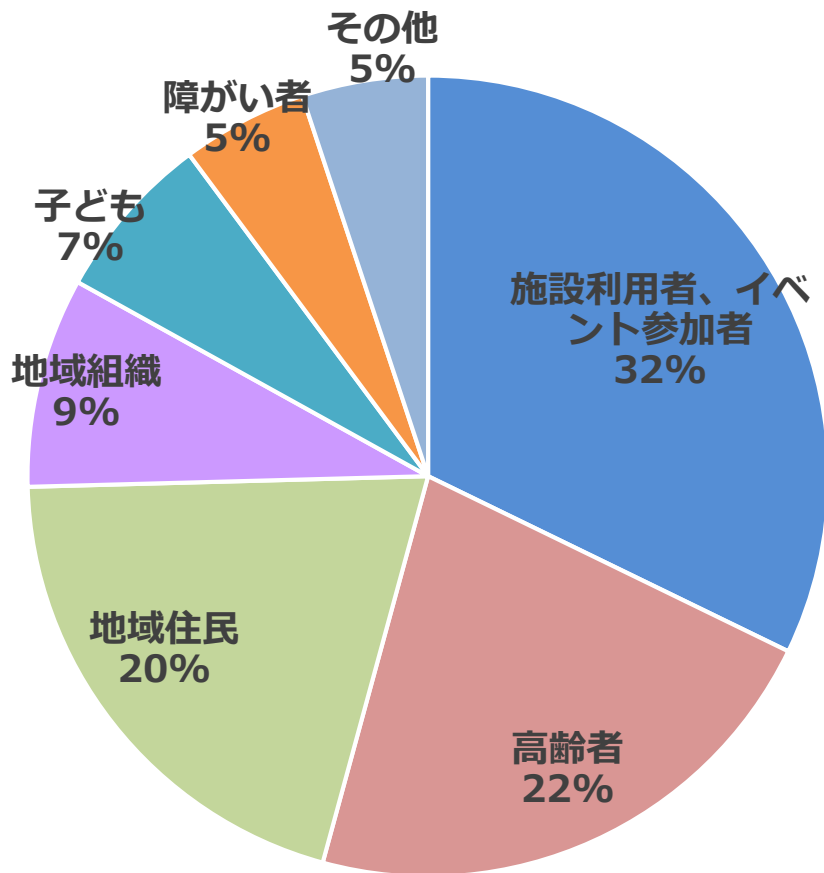


平均：33.1名

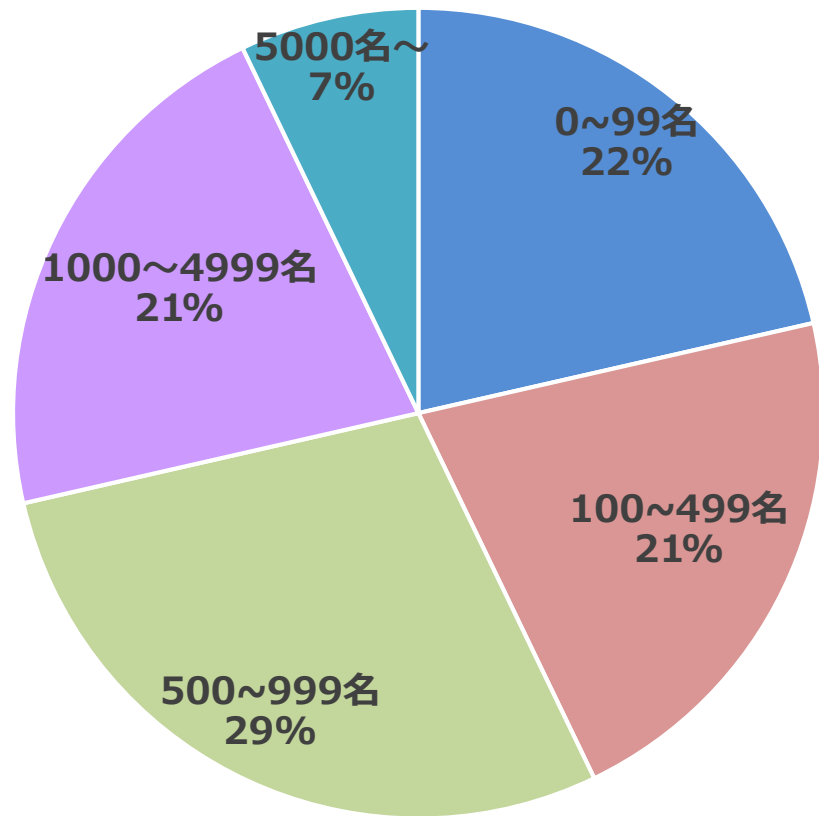
6割の団体が有給スタッフがいない。一方で、ボランティアの平均は33名と、多くの団体がボランティアの協力を得ることで運営をしている。

# 活動状況

## 団体の主な受益者



## 前年度の主な受益者数

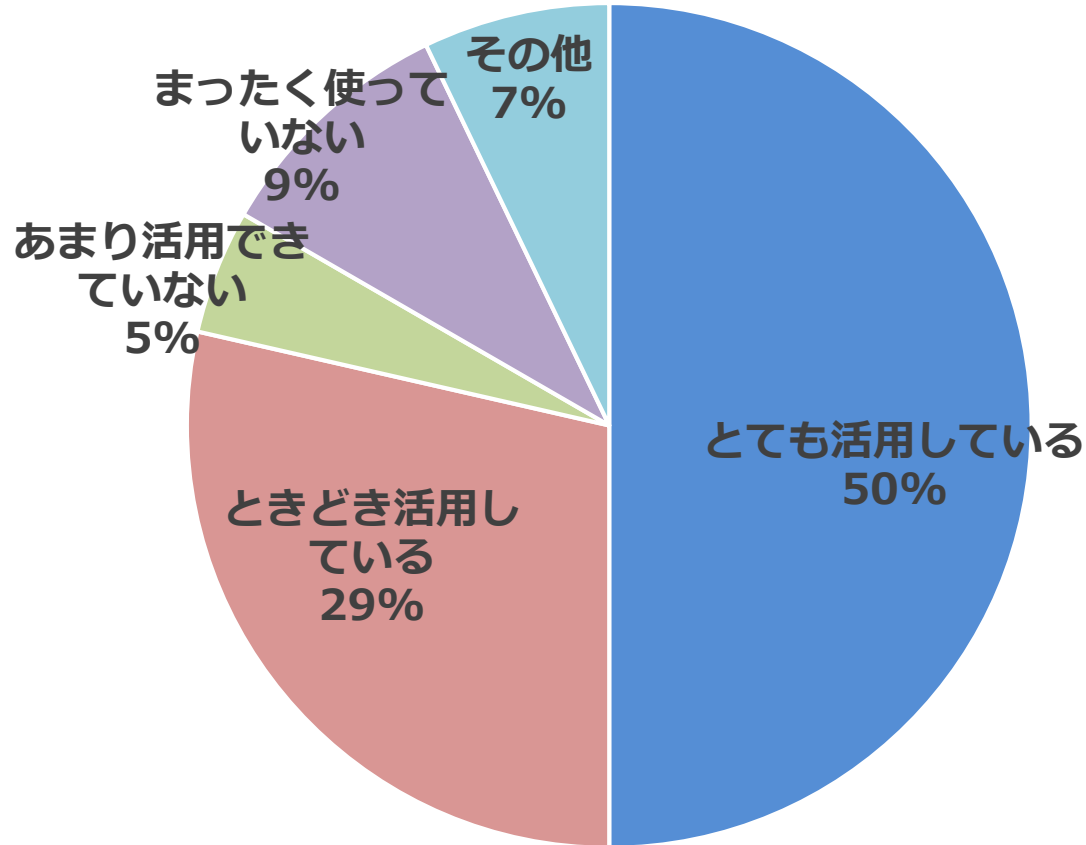


平均：2220名

受益者は「施設利用者、イベント参加者」「高齢者」「地域住民」が多い。また、受益者数が100名以上の団体が約8割ある。

# プロボノの成果物の活用状況

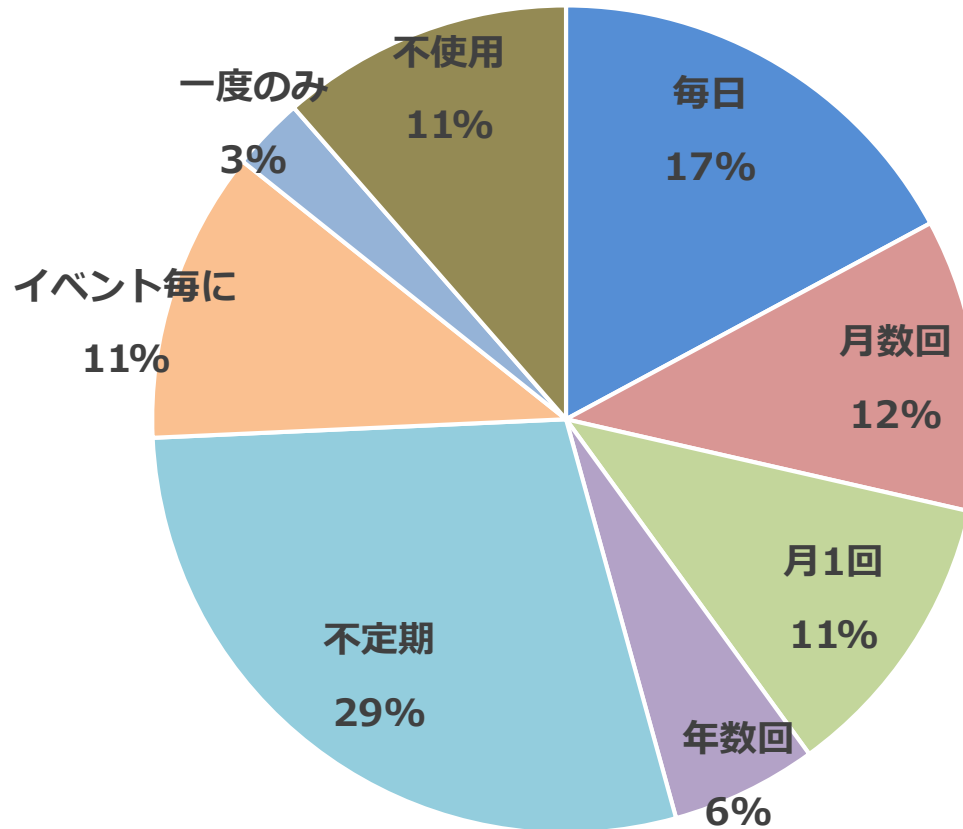
## プロボノの成果物は現在も使われていますか？



**約8割の団体が成果物を現在も活用している。**また「その他」と回答した団体でも修正中、今後使用予定などの記載があった。「まったく使っていない」には事業形態の変更、代表の交代等の理由が含まれる。

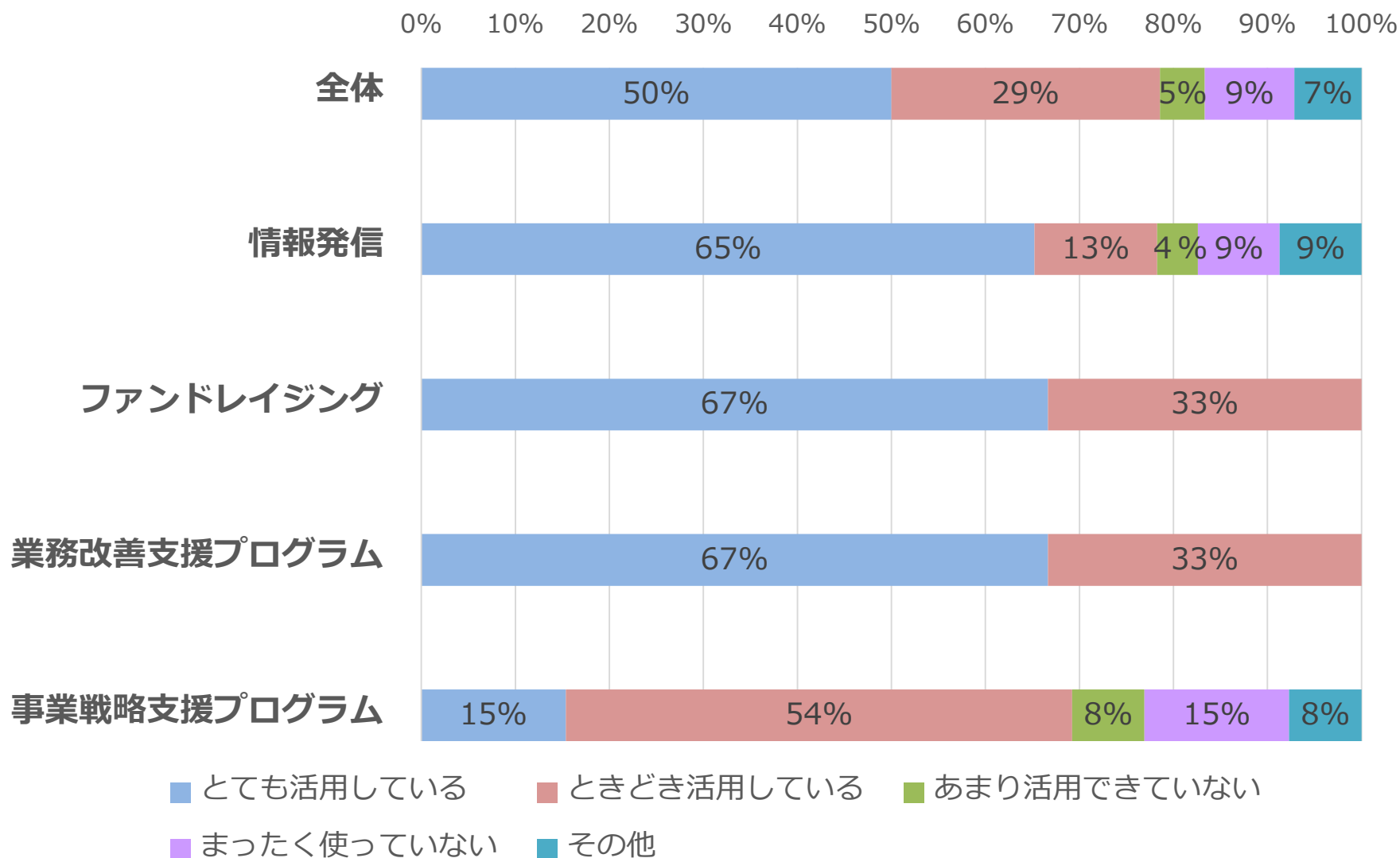


## プロボノの成果物は、どれくらいの頻度で、活用していますか？



約4割の団体が月に1回以上活用している。

# 支援内容別活用頻度



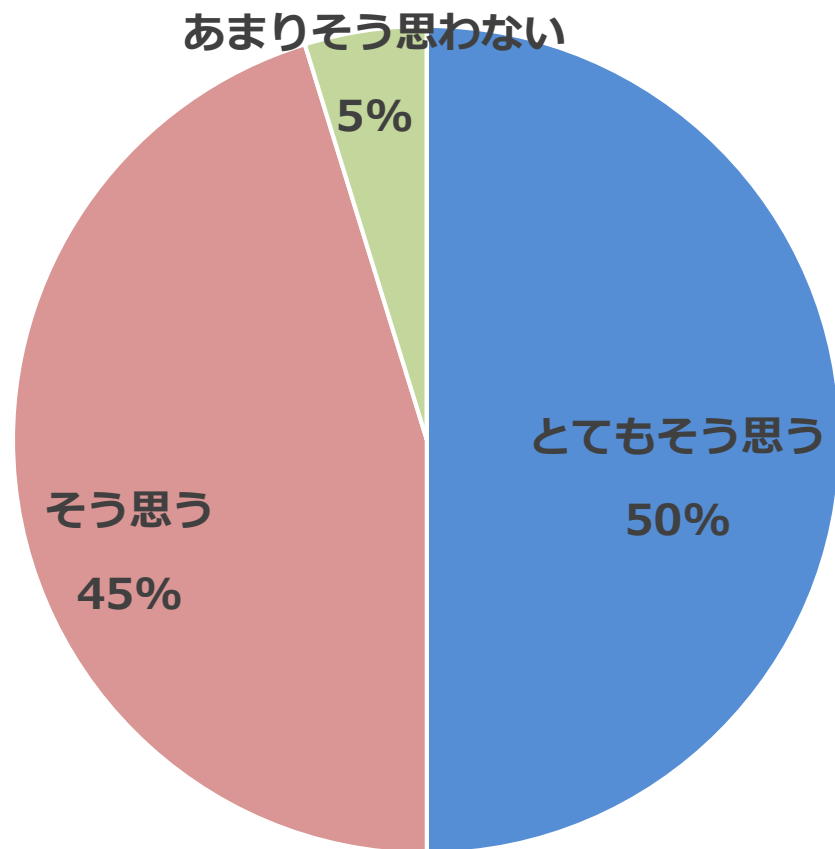
ファンドレイジング、業務改善プログラムでの成果物は、すべての団体に活用されている。

## 活用場面（自由記述抜粋）

- セミナーや住民勉強会等の参加者に対し、移動の問題についての基礎情報を得ていただく意味で配布しています。全文を法人の公式サイトのトップページにも掲載し**広くご覧いただける**ようにしています。
- 新規の見学者や、地域のお祭り等の行事で配布し有効的に活用させて頂いています。パンフレットを作成後利用者は増加しています。
- ボランティア参加者の教育用に、成果物の**基本理念の見える化**を日常活動に取り入れ、資料など作成時には、wordを避けExcelを使用し、図表を多用し、**一覧性の高い理解しやすい資料作成**を心がけるようになりました。
- 成果物で課題整理して見える化でき、近隣住民の方の**活動が広がってきた**。
- 明文化したことで、運営委員による**対応の違いや迷いがなくなり**、わかりやすくなった。また、サイトにも掲載することによって、利用する人の相談や質問に**毎回個別に対応しなくてもよくなった**。

# プロボノを通じたよい変化

プロボノの支援を通じて、団体にとって、よい変化があったと思いますか？



95%の団体が良い変化があったと感じている。

# 支援内容別：プロボノを通じたよい変化

プロボノの支援を通じて、団体にとって、よい変化があったと思いますか？

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

全体 50% 45% 5%

情報発信 56% 35% 9%

ファンドレイジング 100%

業務改善支援プログラム 100%

事業戦略支援プログラム 15% 85%

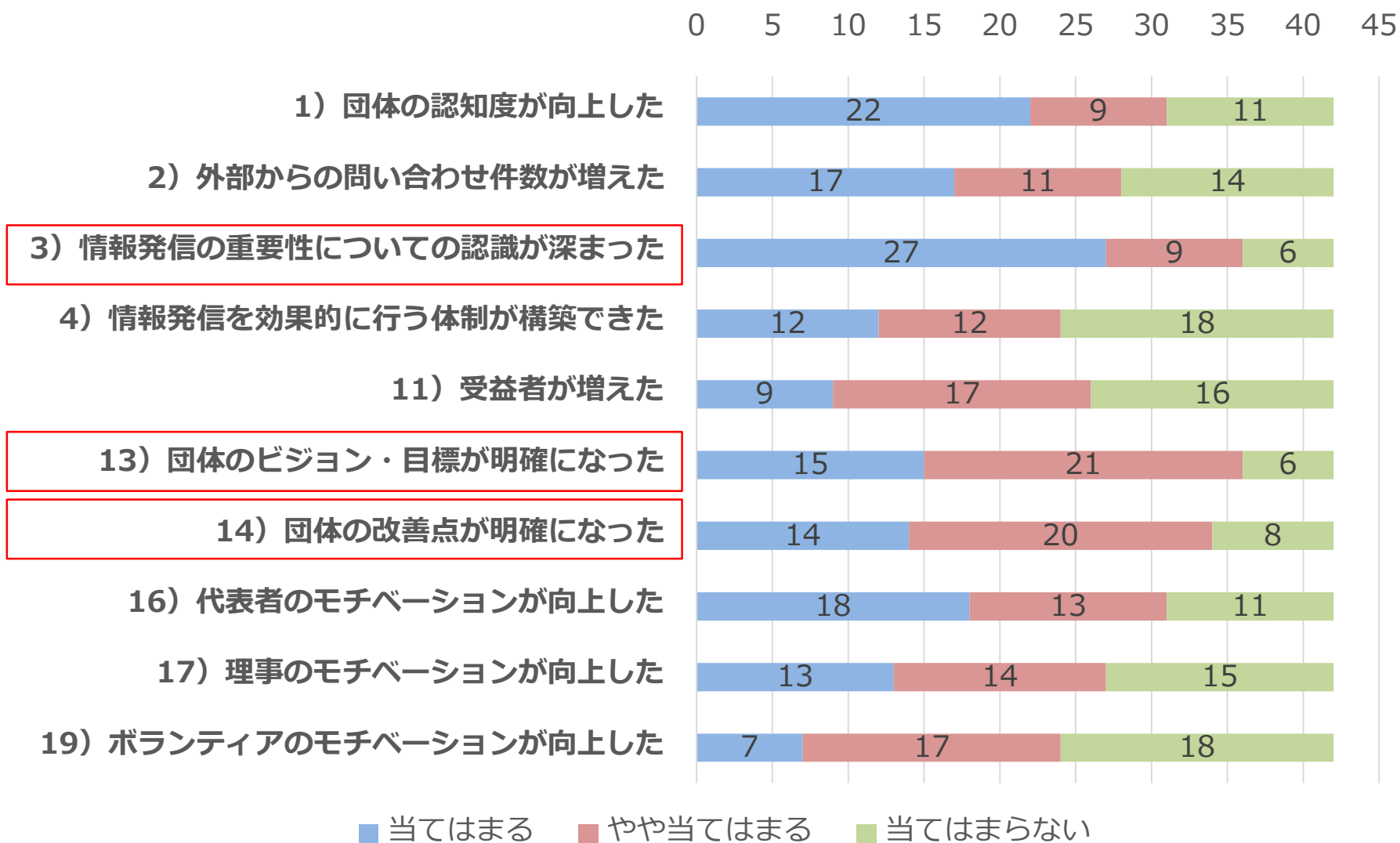
■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

ファンドレイジング、業務改善プログラムでの成果物は、すべての団体で良い変化があったと回答をしている。

## 変化の内容（自由記述抜粋）

- ガイドヘルパーに興味を持った方からの**問い合わせが増えた**（2019年1月から6月にかけて、15名）
- ケアラースカフェの運営方針の設定、**支援者参画者が増えたこと**、新たな主催イベント、有志ミーティングの開催
- 情報の発信・受信の質が上がり、発信は言わずもがな。受信についても、**周囲の子ども食堂の活動の様子が舞い込んで来たり、場所貸しの依頼が来たり**、役立っている。
- 寄付実績が**2か月間で目標の50%を超えた**。寄付の目的達成のため世話人の気持ちに一体感が出てきた
- 個々には理解できていても、団体としての理念などの共通認識が明確になった。何を目指しているかの**意識の統一**ができた。
- プロボノ支援の方々の意欲的な取り組み姿勢に当会メンバーが触発されて**活動が活性化**した。**会の目的がより明確**になった。
- 新入職員などはじめて事業に携わる職員が事業プログラムのイメージを持ち、**スムーズにプログラム運営**を行うことが出来た。

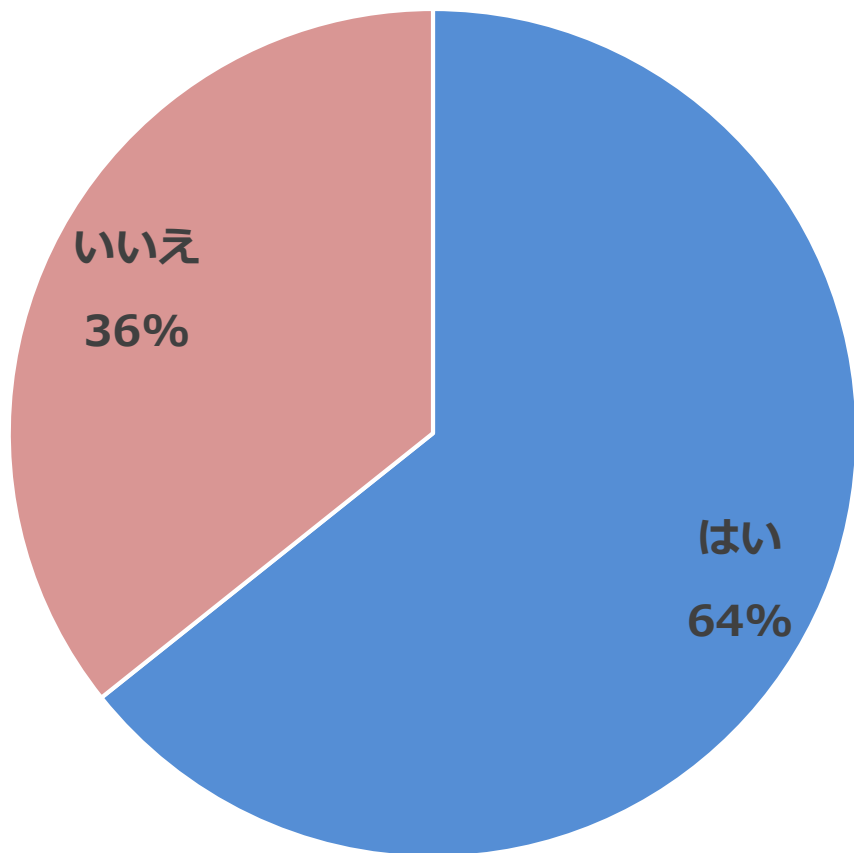
# 東京ホームタウンプロジェクトが寄与した変化（上位10項目）



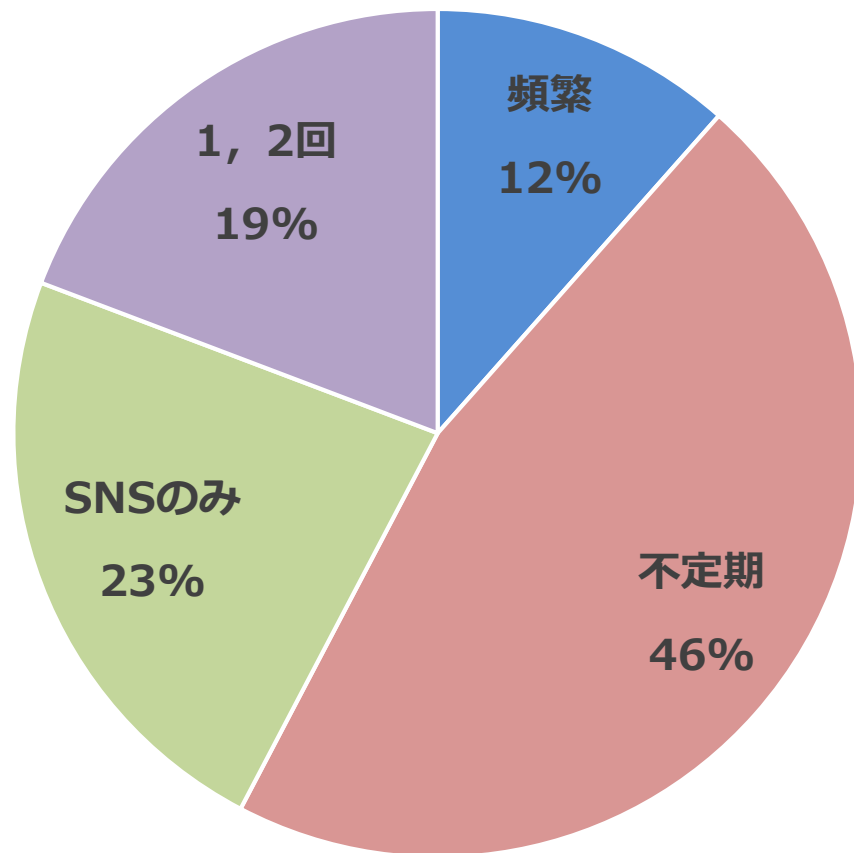
多くの団体で、情報発信の重要性の認識が高まったとともに、団体のビジョン・目標や改善点が明確になっている。

# プロボノワーカーとの継続的な関わり

プロボノワーカーと、プロジェクト終了後も、関わりが生まれ了吗？



プロボノワーカーと接触する頻度



6割以上の団体でプロボノワーカーとの継続的な関わりがあり、内1割の団体で頻繁に関わっているという回答があった。



# 東京ホームタウンプロジェクトの効果・変化

- いざとなったら支援してもらえる体制があることを知った**安心感**。
- 当会を理解していただき、場合によっては支援を求めることも可能な貴機関との出会いに**力強さを認識**し、今後の活動に**自信を持つ**ことが出来た。
- 見守り活動が**広く認知**されてきた
- **多くの団体が、様々な活動を行っていることがわかった。**
- **理事の意識が向上**した。活動内容の拡大。
- 一番大きいのは自分たちのことを**広い視野で考えられる**ようになったことです。中野区の中での比べ合いの中で、小さく小さく悩んでいたことに気がつきました。外部からの視点で自分たちの長所にも気づかされ、励ましを受けることもありました。ひとつの小さな町会に過ぎませんが**すこしずつ自信**が出てきました。

# 今後の課題

## 人材不足・高齢化

- 運営の人材募集、協力者の募集
- 団体が掲げるコミュニティの再生。常にボランティア不足。
- 後継者の人材不足
- 地域の高齢化にともなうメンバーやボランティアの高齢化の問題。

## 資金不足

- サーバー費用及びHPの更新が課題
- 重要な課題としてお金の問題があります。地域活動を活発にすればするほど一部の人の無償の善意を限りなくあてにすることになりやすい。それでいいと思う反面、継続性を考えたら無理とも思います。

## 活動場所の確保

- ボランティア室、場所の確保
- 新たな居場所づくりとしての開催場所の確保

## 地域コミュニティとの連携

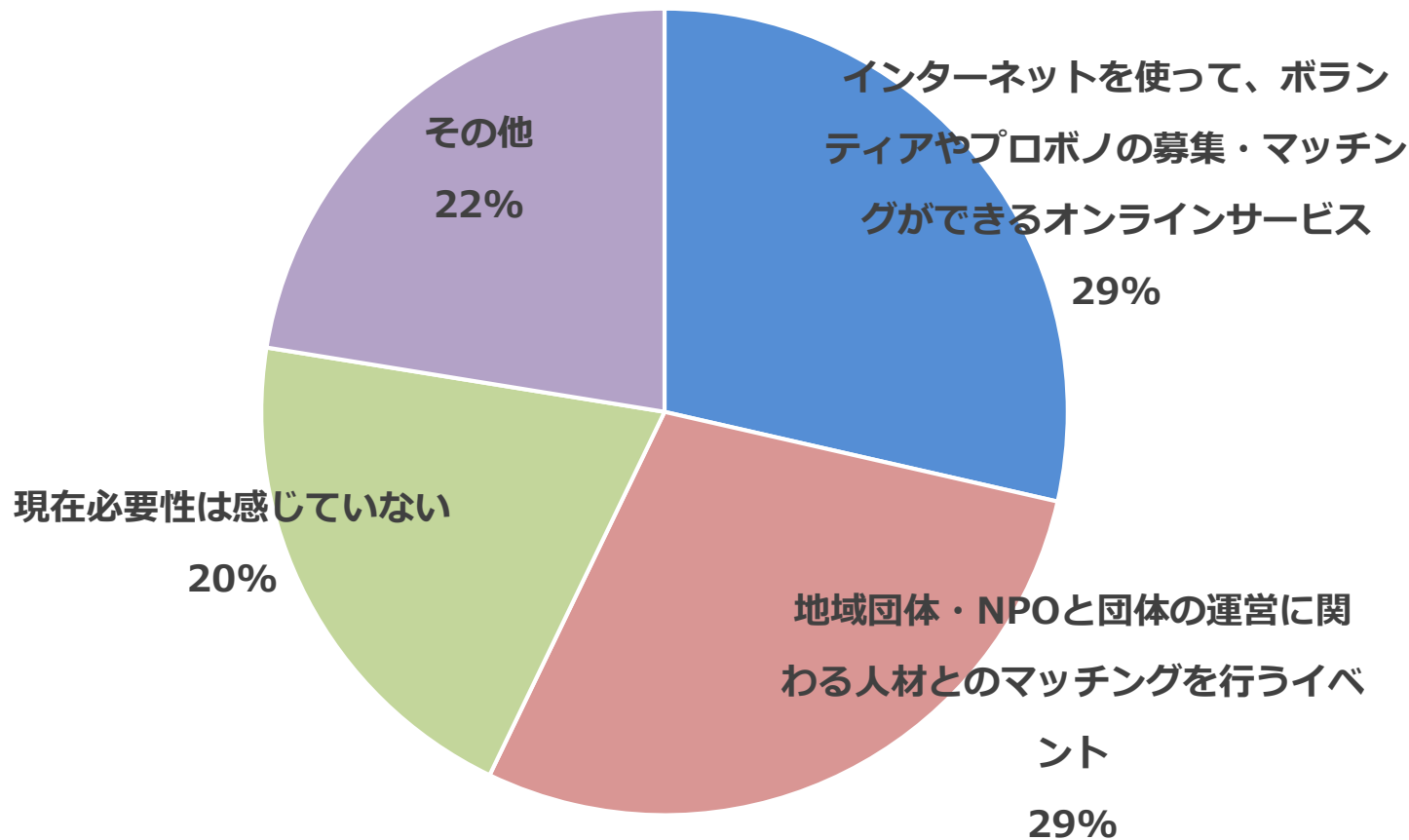
- 地域住民の認知度がまだまだ足りない。
- 日々の業務に「地域活動」を取り入れて、住民とのコミュニティを拡げられない。

## 他

- 新たな事業を考えているがその進め方と企画をまとめる基本的な方法が知りたい。
- 一部のメンバーの団体活動に対する意欲低下やまとまり不足。

# 課題の解決方法

上記9の設問で記載した課題の解決に向けて、  
どのような支援・サービスがあると良いと思いますか？



半数以上の団体が人材募集に関する支援・サービスを求めている。